

新専門医制度内科領域プログラム

～伊丹 Terra 昆陽プログラム～

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

1) 市立伊丹病院の理念は、「私たちは、安全で、安心な信頼される医療を提供します」です。この理念に従い、本プログラムでは、兵庫県の市立伊丹病院を基幹施設として、兵庫県阪神医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て阪神医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科系 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、個々のキャリアパスに応じた複数の研修コースを提供します。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

使命【整備基準2】

1) 内科専門医として、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、(1)最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供できること。(2)疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めるように行動できること。(3)与えられたどのような環境の中でも最善の医療を提供できるようになることを目標として研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムでは、兵庫県の市立伊丹病院を基幹施設として、兵庫県阪神医療圏、近隣医療圏をプログラムの守備範囲とし、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間です。

- 2) 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である市立伊丹病院1年と連携施設での1年の合計2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（以下、J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。
- 4) 連携施設が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 5) 専攻医3年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、J-OSLERに登録できる体制とします。しかし、可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域における内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科医（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは市立伊丹病院を基幹病院として、多くの連携施設と施設群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか【整備基準：13～16, 30】

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3年間の研修で育成されます。
- 2) 専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」（別添）にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的

なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。J-OSLER への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up-to-date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

○専門研修 1 年目

- 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上、60 症例以上を経験し、J-OSLER に登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修 2 年目

- 疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群、120 症例以上を（できるだけ均等に）経験し、J-OSLER に登録することを目標とします。
- 病歴要約：カリキュラムに定める分野に関する 29 症例以上の病歴要約を J-OSLER に登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修 3 年目

- 疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群、そして 160 症例以上（外来症例は、内科専攻に相応しい症例経験として、プロブレムリストの上位に位置して対応が必要となる場合（投薬等は認めません）に限り登録可能となります。）この経験症例内容を J-OSLER へ登録します。
- 病歴要約：既に登録を終えた病歴要約から 29 症例を選択し、担当指導医の 1 次評価、内科専門医制度委員会の査読委員の 2 次評価を受け承認を得ます。
- 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科基本領域の専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

<内科研修プログラムの週間スケジュール：消化器内科の例>

ピンク部分は特に教育的な行事です。

	月	火	水	木	金	土・日	
午前			内科合同 カンファレンス (8:00～ 8:30)		救急 カンファレンス (8:00～ 8:30)	週末日直 (1/月)	
	受け持ち患者の把握/朝カンファレンス/チーム回診 (8:30～9:00)						
	内視鏡検査	学生/初期研修医の指導	腹部超音波 検査セミナー	内視鏡検査 セミナー	一般外来		
病棟	病棟		病棟				
午後	内視鏡検査/ 治療	専門外来	内視鏡検査/ 治療	超音波ガイド下 治療 (RFA など)	内視鏡検査	消化器疾患 フォーラム (1/月)	
		内視鏡 カンファレンス/抄読会		内科外来 緊急当番	総回診/ 症例検討会		
	当直 (1/週)						週末当直 (1/月)

なお、J-OSLER の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

- ① 専攻医 2 年目以降から初診を含む外来 (1 回/週以上) を通算で 6 ヶ月以上行います。
- ② 当直を経験します。

4) 臨床現場を離れた学習

①内科領域の救急、②最新のエビデンスや病態・治療法について専攻医対象のモーニングセミナーやイブニングセミナーが開催されており、それを聴講し、学習します。受講歴は登録され、充足状況が把握されます。内科系学術集会、JMECC (内科救急講習会) 等においても学習します。

5) 自己学習

研修カリキュラムにある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書室に設備を準備します。また、日

本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

6) Subspecialty 研修

後述する” Subspecialty 重点コース”において、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。Subspecialty 研修は 3 年間の内科研修期間のうち、2 年目までにカリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録し、登録された症例のうち 29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出することを前提とし、最長 2 年間の期限を設けて行います。

3. 専門医の到達目標項目 2-3) を参照[整備基準：4, 5, 8～11]

1) 3 年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

- 1) 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから各 1 例を経験すること。
- 2) J-OSLER へ症例(定められた 200 件のうち、最低 160 例)を登録し、それを指導医が確認・評価すること。
- 3) 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
- 4) 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳を参照してください。

2) 専門知識について

内科研修カリキュラムは総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の 13 領域から構成されています。市立伊丹病院には 9 の内科系診療科があり、そのうち 2 つの診療科(糖尿病内科が内分泌・代謝を、アレルギー疾患リウマチ科がアレルギー・膠原病及び類縁疾患)が複数領域を担当しています。また、救急疾患は各診療科の協力のもと管理されており、市立伊丹病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらに連携施設の独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院、兵庫県立西宮病院、大阪大学医学部附属病院、市立川西病院、一般財団法人 住友病院、市立池田病院、西宮市立中央病院、地域医療機能推進機構大阪病院、大阪医科大学附属病院、市立豊中病院、箕面市立病院、大阪労災病院、地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、地方独立行政法人 市立吹田市民病院、市立東大阪医療センター、八尾市立病院、社会福祉法人大阪府済生会千里病院、八尾市立病院、社会福祉法人大阪府済生会千里病院、兵庫医科大学病院を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、地域または県外病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準：13]

1) 朝カンファレンス・チーム回診

朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

2) 総回診：受持患者について主任部長をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例，臨床研究症例などについて専攻医が報告し，指導医からのフィードバック，質疑などを行います。

4) 診療手技セミナー（毎週）：

例：腹部エコーを用いて診療スキルの実践的なトレーニングを行います。

5) CPC：死亡・剖検例，難病・稀少症例についての病理診断を検討します。

6) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で，患者の治療方針について検討し，内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。

7) 抄読会・研究報告会（毎週）：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います。研究報告会では各診療科で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的責任について学びます。

8) Weekly summary discussion：週に1回，指導医と検討会を行い，その際，当該週の自己学習結果を指導医が評価し，研修手帳に記載します。

9) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，本プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています。

5. 学問的姿勢[整備基準：6, 30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし，科学的な根拠に基づいた診断，治療を行います（evidence based medicine の精神）。最新の知識，技能を常にアップデートし，生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また，日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため，症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり，内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

6. 医師に必要な倫理性と社会性[整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。

市立伊丹病院において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において、地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みまます。詳細は項目8(P.8,9)を参照してください。

地域医療を経験するため、全てのコースにおいて連携施設（独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院、兵庫県立西宮病院、大阪大学医学部附属病院、市立川西病院、一般財団法人住友病院、市立池田病院、西宮市立中央病院、地域医療機能推進機構大阪病院、大阪医科大学附属病院、市立豊中病院、箕面市立病院、大阪労災病院、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、地方独立行政法人市立吹田市民病院、市立東大阪医療センター、八尾市立病院、社会福祉法人大阪府済生会千里病院、兵庫医科大学病院）での研修期間を設けています。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動力の組み合わせを指します。なお、連携施設へのローテーションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献します。

基幹施設、連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、受講履歴が個人にフィードバックされ、必要に応じて受講を促されます。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方[整備基準：25, 26, 28, 29]

市立伊丹病院において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を求めます。（詳細は項目10と11を参照のこと）

地域医療を経験するため、全てのコースにおいて連携施設（独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院、兵庫県立西宮病院、大阪大学医学部附属病院、市立川西病院、一般財団法人住友病院、市立池田病院、西宮市立中央病院、地域医療機能推進機構大阪病院、大阪医科大学附属病院、市立豊中病院、箕面市立病院、大阪労災病院、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、地方独立行政法人市立吹田市民病院、市立東大阪医療センター、八尾市立病院、社会福祉法人大阪府済生会千里病院、兵庫医科大学病院）での研修期間を設けています。連携施設へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて臨床研修センターと連絡ができる環境を整備し、月に1回指導医と面談しプログラムの進捗状況を報告します。

8. 年次毎の研修計画[整備基準：16, 25, 31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース、①内科基本コース、②Subspecialty 重点コース、を準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialty が未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は各内科系の診療科ではなく、臨床研修センターに所属し、3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを原則として2~3ヵ月毎にローテートします。

将来の Subspecialty が決定している専攻医は Subspecialty 重点コースを選択し、各内科をローテートしながら Subspecialty の研修を並行して行います。Subspecialty 領域の専門研修は、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から開始することも可能ですが、あくまでも内科専門医研修が期限内に終了することを前提に研修期間を設定する必要があります。

いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後5~6年で内科専門医、その後 Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

① 内科基本コース (P. 14 参照)

内科 (Generality) 専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の3年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として2~3ヵ月を1単位として、1年間に4科以上、3年間で延べ8科以上を基幹施設でローテーションします。2年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。連携施設としては独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院、兵庫県立西宮病院、大阪大学医学部附属病院、市立川西病院、市立池田病院、西宮市立中央病院、地域医療機能推進機構大阪病院、大阪医科大学附属病院、市立豊中病院、箕面市立病院、大阪労災病院、地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、地方独立行政法人 市立吹田市民病院、市立東大阪医療センター、八尾市立病院、社会福祉法人大阪府済生会千里病院、兵庫医科大学病院との間で施設群を形成し、いずれかを原則として1年間ローテーションします(複数施設での研修の場合は研修期間の合計が1年間となります)。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

② Subspecialty 重点コース (P. 15 参照)

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。専攻医は希望する Subspecialty 領域の診療科に所属し、研修1年目は基幹施設において内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、アレルギー疾患リウマチ科、血液内科から診療科を選択しローテーションする事が可能です。研修2年目は、症例数が充足していない領域を重点的に、連携施設において研修すると供

に地域医療を経験し、内科専門医研修で必要とされる最低 45 疾患群以上 120 症例の履修と 29 症例の病歴要約の登録を目標とします。2 年目に研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。研修 3 年目には、基幹施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続して充足していない症例を経験します。Subspecialty 領域の専門研修は、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から開始することも可能ですが、あくまでも内科専門医研修が期限内に終了することを前提に研修期間を設定する必要があります。別紙 2 に示すこのコースでは、内科専門医研修 3 年間の間に Subspecialty 研修を、開始・終了時期、継続性を問わずに内科専門医研修と並行して行うことが可能ですが、Subspecialty 領域の研修は最長 2 年間という期間制約があることをご留意ください。

9. 専門医研修の評価[整備基準：17～22]

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

臨床研修センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないように注意勧告を適宜行います。

② 総括的評価

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいて専門医研修プログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

修了判定後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、複数のメディカルスタッフによって、毎年評価します。評価法については別途定めるものとします。

④ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイスやフィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

10. 専門研修プログラム管理委員会[整備基準：35～39]

専門研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理する専門研修プログラム管理委員会を市立伊丹病院に設置し、その委員長と各施設から1名以上のプログラム管理委員を選任します。専門研修プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

11. 専攻医の就業環境（労務管理）[整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。

労働基準法を順守し、所属した研修施設の就労規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。専門研修プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49～51]

3ヵ月毎に専門研修プログラム管理委員会を市立伊丹病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては専門研修プログラム管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

13. 修了判定 [整備基準：21, 53]

J-OSLERに以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることを専門研修プログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された29編の病歴要約
- 3) 所定の2編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC受講
- 5) 専門研修プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる360度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと [整備基準：21, 22]

専攻医は J-OSLER から専門医認定申請年の 1 月末までに終了判定の申請をしてください。専門研修プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群 [整備基準：23～27]

市立伊丹病院が基幹施設となり、独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院、兵庫県立西宮病院、大阪大学医学部附属病院、市立川西病院、一般財団法人 住友病院、市立池田病院、西宮市立中央病院、地域医療機能推進機構大阪病院、大阪医科大学附属病院、市立豊中病院、箕面市立病院、大阪労災病院、地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、地方独立行政法人 市立吹田市民病院、市立東大阪医療センター、八尾市立病院、社会福祉法人大阪府済生会千里病院、兵庫医科大学病院を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

16. 専攻医の受入数

市立伊丹病院における専攻医の上限（学年分）は 12 名です。

- 1) 市立伊丹病院に卒後 3 年目で内科系診療科に所属した後期研修医は過去 3 年間併せて 27 名で 1 学年の受入数は最多で 11 名の実績があります。
- 2) 市立伊丹病院では、募集定員を一内科系診療科あたり数名の範囲で調整することは可能です。
- 3) 剖検体数は 2020 年度 7 体、2021 年度 9 体、2022 年度 12 体です。
- 4) 経験すべき症例数の充足について

表. 市立伊丹病院内科診療科別診療実績

診療科	2022 年度入院患者実数 (人/年)	2022 年度外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	1,510	19,678
循環器内科	577	12,460
糖尿病・代謝・内分泌内科	371	15,337
呼吸器内科	704	11,301
血液内科	437	6,360
アレルギー疾患リウマチ科	181	10,081
老年内科	173	9,964
心療内科	0	7,836

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群のうち、58 において充足可能でした。従って 56 疾患群の修了条件は当施設に於いて満たすことも可能です。連携施設で残り 12 疾患群を経験することが可能です。

- 5) 専攻医 2 年目に研修する連携施設には、特定機能病院 1 施設、地域連携施設 3 施設があり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 重点コースを選択することになります。基本コースを選択していても、条件を満たせば Subspecialty 重点コースに移行することも可能です。内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば循環器専門医）を目指します。

18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件[整備基準：33]

- 1) 出産，育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 カ月とし，研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 か月以上の休止の場合は，未修了とみなし，不足分を予定修了日以降に補うこととします。また，疾病による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修中に居住地の移動，その他の事情により，研修開始施設での研修続行が困難になった場合は，移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際，移動前と移動先の両専門研修プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医[整備基準：36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し，評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文(症例報告含む)を公表する(「first author」もしくは「corresponding author」であること)，もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【選択要件（下記の 1，2 いずれかを満たすこと）】

1. CPC，CC，学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読，JMECC のインストラクターなど）

※ 但し，当初は指導医の数も多く見込めないことから，すでに「総合内科専門医」を取得している方々は，そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため，申請時に指導実績や診療実績が十分であれば，内科指導医と認めます。また，現行の日本内科学会の定める指導医については，専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は，これまでの指導実績から，移行期間（2025 年まで）においてのみ専門研修指導医と認めます。

20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準：41～48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行います。

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価は専門研修プログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

22. 専攻医の採用と修了[整備基準：52，53]

1) 採用方法

プログラムへの応募者は、専門研修プログラム統括責任者宛に所定の形式の『伊丹 Terra 昆陽プログラム応募申請書 兼 履歴書』および抱負書を提出してください。応募の時期、申請書の入力・提出方法等については市立伊丹病院の website（<http://www.hosp.itami.hyogo.jp>）をご参照ください。

2) 専門研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の4月1日までに以下の専攻医氏名報告書を、市立伊丹病院内科専門研修プログラム管理委員会および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。

3) 専門研修の修了

全専門研修プログラム終了後、専門研修プログラム統括責任者が召集する専門研修プログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

別紙 1

内科基本コース

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設											
	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	老年内科	血液内科	アレルギー-疾患 患 リウマチ科						
	プライマリケア当直研修	1年目に JMECC を受講										
2年目	連携施設											
	腎臓内科	神経内科	連携施設の特色を踏まえたローテーション									
										内科専門医取得のための 病歴提出準備		
3年目	基幹施設											
	初診+再診外来を週に1回担当											
	糖尿病内科	重点的に選択を希望する内科診療科，内科関連の診療科を2～3科選択し ローテーション										
そのほかプログラムの要件	医療安全講習会・感染管理講習会の年2回の受講，CPCの受講											

別紙 2

Subspecialty 重点コース

基幹施設	
内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内科・血液内科・アレルギー疾患リウマチ科のローテーションとSubspecialty を連動して研修	
プライマリケア当直研修	1年目にJMECCを受講
連携施設	
連携施設の特色を踏まえたローテーションとSubspecialty を連動して研修	
内科専門医取得のための病歴提出準備	
基幹施設	
Subspecialty 重点期間は1-3年目の選択期間を合計し最長2年とする。	
初診+再診外来を週に1回担当	
そのほかのプログラムの要件	医療安全講習会・感染管理講習会の年2回の受講、CPCの受講

1) 専門研修基幹施設

市立伊丹病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 31 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理。医療安全。感染対策講習会を定期的で開催（2019 年度実績 5 回、2020 年度実績 9 回、2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2019 年度実績 12 回、2020 年度実績 9 回、2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム、伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム、伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム、伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会、伊丹市医師会内科医会講演会、登竜門カンファレンス、神戸 GM カンファレンスなど、；2019 年度実績 25 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 9 月に第 1 回を開催、2017 年 5 月に第 2 回、2018 年 5 月に第 3 回を開催、2019 年 5 月に第 4 回を開催、2022 年 10 月に第 5 回を開催、2023 年 6 月に第 6 回を開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 58 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 10 体、2019 年度 13 体、2020 年度 8 体、2021 年度 9 体、2022 年度 12 体）を行っています。

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</p> <p>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019 年度実績 9 回、2020 年度実績 3 回、2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 7 回）しています。</p> <p>・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2019 年度実績 11 回、2020 年度実績 8 回、2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 11 回）しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題、2020 年度実績 3 演題、2021 年度実績 5 演題、2022 年度実績 3 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>村山洋子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立伊丹病院は、兵庫県阪神医療圏の中心的な急性期病院であり、阪神医療圏。近隣医療圏にある連携施設。特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診。入院～退院。通院〉まで経時的に、診断。治療の流れを通じて、社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名、 日本消化器病学会消化器指導医 4 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会指導医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、 日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液指導医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本アレルギー学会指導医（内科）1 名、日本リウマチ学会指導医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本老年医学会指導医 2 名、 日本臨床腫瘍学会指導医 1 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 18,447 名（1 ヶ月平均） 新入院患者 791 名（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 臨床研修病院（基幹型） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</p>

	<p> 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 など </p>
--	--

2) 専門研修連携施設

1. 関西労災病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・関西労災病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント防止対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 31 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理（2022 年度実績 1 回）・医療安全（2022 年度実績 2 回）・感染対策講習会（2022 年度実績 2 回）を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（感染対策地域連携カンファレンス；2022 年度実績 4 回、阪神がんカンファレンス；2022 年度実績大腸がん 1 回、肺がん 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 67 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 7 体、2021 年度実績 12 体、2020 年度実績 10 体、2019 年度実績 10 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 13 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 9 回）しています。 ・治験事務局を設置し、月 1 回臨床治験倫理審査委員会を開催（2022 年度実績

	<p>10回) しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2022年度実績3演題)をしています。</p>
指導責任者	<p>和泉 雅章</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>関西労災病院は、兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であり、阪神北医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医6名、日本内科学会総合内科専門医10名</p> <p>日本消化器病学会消化器指導医7名、日本消化器病学会消化器専門医17名、</p> <p>日本循環器学会循環器専門医9名、</p> <p>日本糖尿病学会指導医1名、日本糖尿病学会専門医1名、</p> <p>日本腎臓学会指導医1名、日本腎臓学会専門医3名、</p> <p>日本透析医学会指導医1名、日本透析医学会専門医2名、</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導医6名、日本消化器内視鏡学会専門医13名、</p> <p>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医2名、</p> <p>日本臨床腫瘍学会指導医2名、日本臨床腫瘍学会専門医2名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 24,495名(1ヶ月平均) 入院患者 1,355名(1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度教育施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設</p>

	など
--	----

2. 兵庫県立西宮病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

<p>【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方公務員法第 22 条第 2 項の規定に基づく臨時的任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています。また公舎等の利用が可能です。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります。希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ・院内にハラスメント委員会を設置しました。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 30 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2022 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2017 年度実績 12 回・12 体分、2018 年度実績 4 回・4 体分、2019 年度実績 10 回・10 体分、2020 年度実績 2 回・2 体分、2021 年度実施 4 体、2022 年度実施 2 体）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績 39 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 12 体、2018 年度実績 4 体、2019 年度実績 10 体、2020 年 2 体、2021 年度 4 体、2022 年度実施 2 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017-2022 年度実績 3 演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2020 年度実績 11 回）しています。 ・治験センターを設置し、定期的治験審査委員会を開催（2020 年度実績 12 回）しています。 ・臨床研究センターを設置しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています。 ・臨床教育センターを設置しています。

指導責任者	<p>檜原 啓之（ならはら ひろゆき）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>兵庫県立西宮病院は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪神電車から徒歩 1 分にあります。兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、チーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています。兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部附属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。</p> <p>・本プログラムは、初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して、質の高い内科専門医を育成するものです。医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 30 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名</p> <p>日本消化器病学会消化器病専門医 17 名，日本肝臓学会肝臓専門医 8 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本内分泌学会専門医 3 名，日本腎臓学会腎臓専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 4 名，ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 12,464 名（1 ヶ月平均） 入院患者 9,015 名（1 ヶ月平均延数）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます。また急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定教育施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会特別連携施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本腎臓学会認定研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本救急医学会指導医指定施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設</p> <p>日本胆道学会認定指導施設</p>

	日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 など
--	---

3. 大阪大学医学部附属病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

<p>【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ・ハラスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 132 名在籍しています。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（内科系）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究が定期的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に行われています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>プログラム統括責任者 保仙直毅 副プログラム統括責任者 坂田泰史 研修委員会委員長 保仙直毅</p>
<p>指導医数（常勤）</p>	<p>日本内科学会指導医 132 名</p>

	<p>総合内科専門医 135 名</p> <p>内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医</p> <p>日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医</p> <p>日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医</p> <p>日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科）</p> <p>日本リウマチ学会専門医、日本老年病医学会専門医</p> <p>JMECC ディレクター 1 名、JMECC インストラクター 10 名</p>
<p>外来・入院 患者数 （内科系）</p>	<p>2022 年度実績 外来患者延べ数 206,362 名、退院患者数 5,447 名 （病院許可病床数 一般 1034 床、精神 52 床）</p> <p>2022 年度 入院患者延べ数 90,788 名（循環器内科 16,864 名、腎臓内科 5,742 名、消化器内科 16,229 名、糖尿病・内分泌・代謝内科 6,951 名、呼吸器内科 10,711 名、免疫内科 6,769 名、血液・腫瘍内科 12,656 名、老年・高血圧内科 4,183 名、神経内科・脳卒中科 10,683 名）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 （内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本循環器学会専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌科認定教育施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本血液学会研修施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p>

	日本老年病医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設
--	----------------------------------

4. 川西市立総合医療センター

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

<p>【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（医事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が川西市立総合医療センター内、医療法人協和会内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・提携している保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は6名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2022年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院主催川西市地域医療連携勉強会、感染防止対策講習会）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも8分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2020～2022年度平均3.0体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1講演以上に学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>厨子 慎一郎</p>
	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p>

	<p>川西市立総合医療センターは 2022 年 9 月に新規開院した川西市内最大の急性期病院です。阪神北医療圏域の中核病院として広く川西市、猪名川町にわたる高齢者の多い地域の多彩な疾患が経験可能です。内科以外の診療科とも協力して積極的に診療にかかわり、生涯にわたって学習する姿勢を大事にする医師を育成します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会指導医 4 名、 日本消化管学会胃腸科専門医 2 名、日本消化管学会胃腸科指導医 2 名、 日本カプセル内視鏡学会専門医 1 名、日本カプセル内視鏡学会指導医 1 名、 日本循環器学会専門医 4 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、 日本禁煙学会専門医 1 名、日本禁煙学会指導医 1 名、 日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器学会指導医 4 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会指導医 1 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、 日本高血圧学会指導医 1 名、日本老年病学会専門医 1 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 9,190 名 (1 か月平均) 入院患者数 8,554 名 (1 か月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち 8 領域 50 疾患群以上の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定 など</p>

5. 西宮市立中央病院

認定基準 【整備基準 23】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
-------------------	---

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮市立中央病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・各種ハラスメント相談窓口（セクシュアル&パワーハラスメント対策委員会）が西宮市立中央病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 16 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（リウマチ・膠原病内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修委員会（管理室）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2022 年実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（院内学術集会：西宮地域医療連携セミナー、院内感染対策講習会、南阪神肝疾患病診連携セミナー、西宮二次救急輪番循環器カンファレンスなど：2022 年度実績 9 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（管理室）が対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年 1 体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、インターネット（Wifi）、統計ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2022 年度実績 4 回）してい

境	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 11 回）しています。
指導責任者	<p>小川 弘之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】 西宮市立中央病院は、阪神医療圏の中心的な急性期病院であり、地域に根ざした第一線の病院でもあります。近隣医療圏、大阪医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師になられるよう、また学究的な医師となられるように指導させていただきます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医 10 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 4 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 3 名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名</p> <p>日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名</p> <p>日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名</p> <p>日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 390 名（1 日平均） 入院患者 108 名（1 日平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p>

6. 市立池田病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi環境があります。 ・池田市非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります。 ・ハラスメント委員会が池田市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>日本内科学会指導医は23名在籍しています。（2023年4月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2022年度実績計6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行う（2021年度実績2回、2022年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表（2020年度実績11演題、2021年度実績7演題）をしています。
指導責任者	<p>石田 永(1名)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立池田病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医18名、日本消化器病学会消化器専門医11名、日本肝臓学会肝臓専門医9名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本内分泌学会内分秘専門医2名、日本糖尿病学会糖尿病専門医2名、日本腎臓学会腎臓専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名ほか
外来・入院患者数(内科系)	外来延患者数 335人/日 新入院患者数377人/月 (2022年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある15領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>地域医療支援病院</p> <p>厚生労働省臨床研修指定病院（医科）</p> <p>大阪府がん診療拠点病院</p> <p>日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver.1.1）</p> <p>卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院</p> <p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本血液学会研修認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p>

	日本透析医学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST（栄養サポートチーム）稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST（栄養サポートチーム）稼働施設 日本静脈経腸栄養学会実施修練認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設
--	--

7. 一般財団法人住友病院

認定基準 【整備基準24】	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
-------------------------	------------------------

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻医各個人に1つずつ座席とロッカーが与えられます。 ・研修に必要なインターネット環境があります。各個人にそれぞれ1台のPC端末が貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。カルテからの情報収集やカルテ記載のために順番待ちをするということはありません。 ・また図書室は24時間使用可能です。100種以上の英文ジャーナルを定期購読しており、専任の司書が存在するので文献検索も容易です。 ・一般財団法人住友病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・院内のレストランは昼食、夕食に利用可能で、病院からの補助があるので1食350～400円程度で質、量ともに満足できます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は30名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・副院長）、にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・病診連携や病病連携など地域参加型のカンファレンス（基幹施設：中之島地域医療セミナー、臨床集談会、北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会、SOK sの会（循環器）、新大阪腎疾患カンファレンス、大阪血液疾患談話会、神経内科の集い、大阪肝疾患臨床検討会OLD-CC、呼吸器CRPカンファレンス、なにわ緩和ケアカンファレンス、など；年間60～70回）を定期的で開催し、ローテート中の専攻医に受講を勧め、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（院内開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2020年度実績4体、2021年度12体、2022年度4

	体) を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022年度実績11回）しています。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022年度実績11回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2020年度実績9演題、2021年度実績10演題、2022年度実績10演題）をしています。 専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	<p>山本 浩司</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は大阪医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、近隣医療圏にある多くの連携施設と併せて内科専門研修を行っています。</p> <p>急性期から慢性期まで、また、common diseaseから専門性の高い疾患の高度医療に至るまで、できる限り多くの症例を主担当医として経験し幅広い知識・技術を習得して頂くとともに、患者の社会的背景の把握、療養環境調整など全人的な医療を実践でき、地域医療にも貢献できる内科専門医の養成を目標としています。</p> <p>診療科・出身医局・職種間の垣根が低く、連携・協力関係が極めて良好であるという当院の特色を生かして研修に邁進して頂きたいと思えます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医30名、日本内科学会総合内科専門医30名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医10名、日本循環器学会循環器専門医7名、日本糖尿病学会専門医6名、日本内分泌学会専門医2名、日本腎臓学会専門医6名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本血液学会血液専門医4名、日本神経学会神経内科専門医8名、日本アレルギー学会専門医1名、日本リウマチ学会専門医4名、日本救急医学会救急科専門医3名、ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者1,205名（1日平均） 入院患者325名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、専攻医登録評価システム（J-OSLER）（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定医制度認定施設</p> <p>日本血液学会認定医研修施設</p>

日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医研修施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設 など

8. 地域医療機能推進機構大阪病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 地域医療機能推進機構大阪病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスについては、産業医、心理療法士及び総務企画課長が適切に対処します。
---------------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントについては、総務企画課長が対処します。 ・女性専攻医でも安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 13 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・専攻医に医療安全セミナーを年 2 回以上、感染対策セミナーを年 2 回以上の受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を原則毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（年 4 回）と治験審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は治験審査委員会が担当し、受託研究審査委員会（適宜開催）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>金子 晃</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>地域医療機能推進機構大阪病院は、大阪府 2 次医療圏である大阪市西部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように研修を行い、総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。</p>

<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 13名 日本内科学会総合内科専門医 16名 日本消化器病学会専門医 8名 日本呼吸器学会専門医 3名 日本糖尿病学会専門医 5名 日本神経学会専門医 5名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1名 日本心血管インターベンション学会認定医 1名 日本心血管インターベンション治療学会認定心血管カテーテル専門医 1名 日本心血管インターベンション学会名誉専門医 1名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 3名 日本透析学会専門医 4名 アレルギー学会認定専門医(内科) 1名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 2名 日本超音波学会認定超音波専門医 1名 日本消化管学会認定医 1名 日本ヘリコバクター学会認定ピロリ菌感染症認定医 2名 日本不整脈学会認定専門医 2名 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医 4名 日本脳神経血管内治療学会専門医 1名 日本内分泌学会専門医 2名</p> <p>日本内科学会認定医 21名 日本循環器学会専門医 9名 日本肝臓学会専門医 5名 日本腎臓病学会専門医 4名 日本消化器内視鏡学会専門医 8名 日本感染症学会専門医 1名</p>
<p>外来・入院 患者数 (内科)</p>	<p>外来患者 年間 93,889名 (1ヶ月平均 7,824人) 入院患者 年間 56,654名 (1ヶ月平均 4,721人)</p>
<p>経験できる 疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある12領域、69疾患群の症例を幅広く経験することができます</p>
<p>経験できる 技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域 医療・診療連携</p>	<p>総合病院における急性期医療だけでなく、地域に根ざした中核病院における医療、病診・病病連携なども経験できます。また全国規模の地域医療機能推進機構のスケールメリットを生かした、僻地医療も経験もできます。</p>

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設</p>	<p>日本神経学会専門医教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院</p>
-------------------------	--	--

9. 大阪医科薬科大学病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪医科薬科大学病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 32 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022 年度実績 医療安全 9 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2022 年度実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>星賀正明（内科専門研修プログラム統括責任者）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪医科薬科大学病院は、大阪三島医療圏に属し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは市立伊丹病院と連携して内科医を育成することを目的とし、特に大学病院ならではの高度医療や多職種チーム医療を経験していただきます。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。どうぞ安心して、本プログラムにご参加ください。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 65 名、日本消化器病学会消化器専門医 27 名、日本循環器学会循環器専門医 26 名、日本内分泌学会専門</p>

	医 4 名, 日本糖尿病学会専門医 11 名, 日本腎臓病学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名, 日本血液学会血液専門医 1 名, 日本神経学会神経内科専門医 8 名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 1 名, 日本リウマチ学会専門医 17 名, 日本感染症学会専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 6 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,772 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 7,614 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	--

10. 市立豊中病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります。 ・豊中市非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 26 名在籍しています（2023 年 4 月 1 日現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、豊中糖尿病勉強会、北摂腎疾患談話会、豊中消化器病懇話会、北摂内視鏡治療研究会、待兼山神経懇話会、大阪血液疾患談話会、中之島循環器代謝フォーラムなど）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度 13 体、2019 年度 2 体、2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的な治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>小杉 智（内科主任部長、血液内科主任部長）</p>

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤内科医) 2023年4月1日現在</p>	<p>日本内科学会指導医 26名、日本内科学会総合内科専門医 26名 日本専門医機構認定(新)内科専門医 4名 日本消化器病学会消化器専門医 8名、日本肝臓病学会専門医 4名 日本循環器学会循環器専門医 9名、日本糖尿病学会専門医 3名、 日本内分泌学会専門医 3名、日本腎臓病学会専門医 4名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名、日本血液学会血液専門医 4名、日本神経学会神経内科専門医 5名、日本アレルギー学会専門医 1名、日本臨床腫瘍学会専門医 2名、日本内視鏡学会専門医 5名</p>
<p>外来・入院患者数 (内科系)</p>	<p>外来延患者数 108,563名/年(2022年度) 入院件数 6,021件/年(2022年度)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設</p>

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など
--	---

1 1. 箕面市立病院

<p>認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・任期付職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局病院人事室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>指導医は 18 名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的で開催（2022 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2022 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会，箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 2 体、2021 年度実績 3 体、2020 年度実績 6 体、2019 年度実績 12 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 8 体、2016 年度実績 10 体）を行っています。
<p>認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し，定期的で開催しています（2022 年度実績 4 回）。 ・治験審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています（2022 年度実績 1 回）。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>森谷 真之 【内科専攻医へのメッセージ】 箕面市立病院は，豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり，大阪大学医学部附属病院および，豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病</p>

	院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 11 名，日本消化器病学会消化器病専門医 10 名，日本肝臓病学会肝臓専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名，日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名（内科 0 名），日本呼吸器学会呼吸器専門医 0 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医 0 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名（内科 0 名），日本感染症学会感染症専門医 0 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名
外来。入院患者数（内科系）	外来延患者数 168,210 名/年（2022 年度） 入院延患者数 80,205 名/年（2022 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術、技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術。技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働認定施設 など

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・腎臓内科部長）、プログラム管理者（副院長・循環器内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2022 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2022 年度実績 30 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 7 体、2021 年度実績 13 体）を行っています。
<p>認定基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。

<p>【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>・倫理委員会を設置し、定期的を開催（2022 年度実績 4 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2022 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 15 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>山内 淳 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 16 名、日本消化器病学会消化器指導医 6 名、日本内分泌学会指導医 2 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 2 名、日本腎臓学会指導医 2 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 3 名、日本超音波医学会指導医 2 名、日本高血圧学会指導医 2 名、日本肝臓学会指導医 3 名、日本透析医学会指導医 2 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本神経学会神経内科指導医 2 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 33,713 名（1 ヶ月平均） 入院患者 16,011 名（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 （内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設</p>

	日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本神経学会認定准教育施設 など
--	---

1 3. 大阪急性期・総合医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪府こころの健康総合センター）が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・ハランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ・指導医は 2022 年 3 月の時点で 37 名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的で開催（2022 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 9 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2022 年度実績：7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病診連携カンファレンス 2022 年度実績 0 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2022 年度実績 2 演題)をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林 晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 37 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名
外来・入院 患者数	2021 年実績：外来患者 1465 名（平均/日）、入院患者 21213 名/年
経験できる疾患群	専攻医登録評価システム（J-OSLER）にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センタ

	<p>ーは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医教育施設 日本血液学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本内科学会専門医制度研修施設 日本感染症学会研修認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 心血管インターベンション学会研修施設 植え込み型除細動器移植・交換術認定施設 両室ペースメーカー移植術認定施設 日本胆道学会指導施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本内分泌学会連携医療施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設</p>

1 4. 国立病院機構大阪医療センター

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構大阪医療センター専攻医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病事後保育を含め利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 30 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務づけされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 委員会（月 1 回）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>三田英治</p>

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構大阪医療センターは、大阪府2次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 33名</p> <p>日本内科学会認定医 45名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 24名</p> <p>日本内科学会専門医(新制度) 8名</p> <p>日本循環器学会専門医 10名</p> <p>日本消化器病学会専門医 9名</p> <p>日本肝臓学会専門医 7名</p> <p>日本呼吸器学会専門医 5名</p> <p>日本腎臓病学会専門医 3名</p> <p>日本糖尿病学会専門医 3名</p> <p>日本内分泌学会専門医 1名</p> <p>日本血液学会専門医 4名</p> <p>日本神経学会専門医 2名</p> <p>日本アレルギー学会専門医 1名</p> <p>日本感染症学会専門医 3名</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医 7名</p> <p>日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 年間 240,023名(1ヶ月平均 20,002人)</p> <p>新入院患者 年間 14,322名(1ヶ月平均 1,194人)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある12領域、69疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会専門医制度教育病院</p> <p>日本神経学会準教育施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本胆道学会認定指導医制度指導施設</p>

	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設
--	--

15. 市立吹田市民病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

<p>【整備基準23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医師（非常勤職員）として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります。 ・ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は28名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医），プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022年度実績10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2022年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2020年度5体、2021年度4体、2022年度5体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的で開催（2022年度実績4回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2022年度実績11回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2020年度実績4演題、2019年度実績5演題、2018年度実績4演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>火伏俊之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立吹田市民病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献でき</p>

	<p>る内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (内科系常勤医)	<p>日本内科学会指導医8名，日本内科学会総合内科専門医15名 日本消化器病学会消化器専門医8名，日本肝臓病学会専門医7名 日本循環器学会循環器専門医4名，日本糖尿病学会専門医3名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本血液学会血液専門医4名， 日本神経学会神経内科専門医3名，日本アレルギー学会専門医（内科） 1名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医2名 ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者18,146名（1か月平均） 入院患者755名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 臨床研修認定病院 など</p>

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・市立東大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が東大阪市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，病児保育も含めて利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 17 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022 年度 Web 開催実績はそれぞれ 1 回・2 回・2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2023 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC については，COVID-19 の影響により，開催に制限を受けていますが，2020 年度 2 回，2021 年度 3 回，2022 年度 3 回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス（市立東大阪医療センタースクラム会，東大阪市循環器研究会，東大阪市神経筋難病地域ケア研究会，東大阪生活習慣病研究会，東大阪市消化器病症例検討会，東大阪市腎臓病カンファレンス）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科，消化器，循環器，代謝，腎臓，血液，神経，膠原病，感染症，救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしており，その他を含めて 2021 年度には合計 20 演題の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>鷹野 譲</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立東大阪医療センターは，大阪府中河内医療圏に 2 病院しかない内科学会教育病院の 1 つで，当地区の中心的な急性期病院であり，中河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。また，2017 年 4 月より 3 次救命救急センターである，隣接府立中河内救命救急センターの指定管理も受託しており，当センターとの一体化した運用により，高度の救急疾患も経験できます。さらに，2019 年度には ICU，手術室の大幅な拡張工事を行い，心臓血</p>

	<p>管外科の手術も開始し、アブレーションなど循環器内科の症例も飛躍的に増加する一方、脳外科と神経内科で脳卒中当直（SCU）も開始し、さらに優れた急性期医療を経験できるようになりました。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 17 名，日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 5 名， 日本神経学会専門医 4 名，日本リウマチ学会専門医 2 名， 日本肝臓学会専門医 6 名，日本老年病学会専門医 1 名 日本血液学会 1 名，日本消化器内視鏡学会 6 名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 77,633 名/年，新患 13,303 名/年 入院患者 54,132 名/年，新入院 4,059 名/年（実数）2022 年度内科系実績</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本頭痛学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など</p>

17. 八尾市立病院

認定基準

【整備基準 24】

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

<p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・八尾市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が八尾市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 19 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器内科部長），内科専門研修委員会委員長（内科部長）；専門医研修プログラム準備委員会から 2018 年度に以降済）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理部門（2023 年度予定）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2020 年度実績 5 回、COVID-19 感染症対応の影響で 2021 年度は減少）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2023 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（COVID-19 感染症対応の影響で 2021 年度は減少、2021 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（八尾地域医療合同研究会，中河内消化器疾患研究会，中河内平野循環器病診連携会，がん相談支援センター合同研修会；2019 年度実績計 5 回、（COVID-19 感染症対応の影響で 2021 年度は減少）を定期的に行い，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（基幹あるいは連携施設で受講可能です）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理部門（2023 年度予定）が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度 10 体、2019 年度 7 体、2020 年度 6 体、2021 年度 4 体、COVID-19 感染症対応の影響で 2021 年度は減少）を行っています。

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 7 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会発表に年間で計 3 演題以上の学会発表（COVID-19 感染症対応の影響で 2021 年度は減少、2018 年度実績 5 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>榊原 充</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>八尾市立病院は大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院であり中河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行います。</p> <p>八尾市立病院は地域連携支援病院として地域の診療所・クリニック等では対応困難な専門的診断・治療や高度な検査・手術等を行い「地域完結型医療」の中心的役割を担っており、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します。</p> <p>八尾市立病院は国指定の地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん診断・治療から緩和ケアまで施行し中河内医療圏南部のがん診療の中核施設となっています。大阪大学医学部附属病院，大阪急性期・総合医療センター，都道府県がん診療連携拠点病院である大阪国際がんセンターなどと連携しており，大阪府の急性期医療、地域医療支援、がん診療の実情を理解しそれらの実践的医療も行えるよう専攻医を指導訓練します。</p> <p>主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 19 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名， 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本肝臓学会肝臓専門医 5 名， 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本内分泌学会専門医 1 名， 日本老年医学会専門医 1 名，日本脳卒中学会専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 2 名， 日本がん治療認定医機構がん治療専門医 2 名， 日本化学療法学会抗菌化学療法士 1 名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者数 178,968 名 入院患者数 96,370 名 新入院 9,889 名 (2021 年度)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の</p>

能	症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本血液学会認定血液研修施設 ・日本糖尿病学会教育施設 ・日本消化器病学会認定医制度認定施設 ・日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 ・日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 ・日本透析医学会専門医制度認定施設 ・日本老年医学会認定施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本アレルギー学会認定教育施設 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本臨床細胞学会教育研修施設 ・日本病理学会研修登録施設 <p>など</p>

18. 済生会千里病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員のメンタル管理の仕事を中心とする臨床心理士1名が配属）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。
---------------------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・女性専攻医が安心して勤務できるように、女医休憩室、女医当直室、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・管理棟内に職員家族用の院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 11 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設の研修委員会との連携を図り専攻医の研修を管理します。 ・医療倫理研修会・医療安全研修会・感染対策研修会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（千里診療連携セミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野（総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 3 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。医学中央雑誌の web 版（医中誌 web）、「メディカルオンライン」が利用できます。英語の文献は近畿病院図書室協議会の KIT0cat のシステムを利用して文献を取り寄せることが可能です。その他、英語で「UpToDate」が、日本語で「今日の臨床サポート」が使用できます。 ・外部委員も参加する倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に継続して学会発表をしています。
指導責任者	<p>プログラム統括責任者：増田 栄治 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とも連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 <u>2</u> 名、日本消化器病学会消化器指導医 <u>2</u> 名、日本消化器内視鏡学会指導医 <u>1</u> 名、日本肝臓学会指導医 <u>1</u> 名、日本超音波医学会指導医 <u>4</u> 名、日本呼吸器学会指導医 <u>2</u> 名、日本内科学会総合内科専門医 <u>10</u> 名、日本消化器病学会消化器専門医 <u>6</u> 名、日本循環器学会循環器専門医 <u>9</u> 名、日本糖尿病学会専門医 <u>2</u> 名、日本腎臓病学会専門医 <u>1</u> 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 <u>3</u> 名、日本血液学会血液専門医 <u>0</u> 名、日本神経学会神経内科専門医 <u>0</u> 名、日本アレルギー学会専門医（内科）<u>0</u> 名、日本リウマチ学会専門医 <u>1</u> 名、日本感染症学会専門医 <u>0</u> 名、日本救急医学会救急科専門医 <u>8</u> 名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>新外来患者数 1875 名（1 ヶ月平均）（2022 年度） 新入院患者数 448 名（1 ヶ月平均）（2022 年度）</p>
経験できる疾患群	<p>当院において研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域にある 56 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基</p>

能	づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脈管学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

19. 兵庫医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・ 専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・ 心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心
--------------------------------	---

	<p>理士によるカウンセリングを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・ 隣接地の保育園に当院専用枠が 70 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 69 名在籍しています。 ・ 本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的で開催しています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に、臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・ 専門研修に必要な剖検数を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>朝倉 正紀</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。</p>

	また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 69 名 日本内科学会総合内科専門医 56 名 血液専門医 9 名 日本リウマチ学会専門医 14 名 日本糖尿病学会認定専門医 14 名 日本内分泌学会専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 39 名 日本消化器内視鏡学会専門医 30 名 日本呼吸器学会専門医 7 名 日本神経学会専門医 6 名 日本腎臓学会認定専門医 8 名 日本透析医学会認定専門医 9 名 日本循環器学会専門医 24 名
外来・入院患者数（2022 年度実績）	外来患者数：222,467（延人数）・入院患者数：98,923（延人数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。

<p>学会認定施設（内科系）</p>	<p>日本アレルギー学会 日本がん治療認定医機構 日本リウマチ学会 日本肝臓学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本循環器学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器病学会 日本心血管インターベンション学会 日本緩和医療学会 日本静脈経腸栄養学会 日本動脈硬化学会 日本不整脈学会 日本神経学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本糖尿病学会 日本透析医学会 日本頭痛学会 日本内科学会 日本内分泌学会 日本脳卒中学会 日本輸血・細胞治療学会 日本臨床細胞学会 日本臨床腫瘍学会 日本臨床神経生理学会 日本老年医学会 日本 IVR 学会 日本カプセル内視鏡学会 日本高血圧学会 日本消化管学会 日本胆道学会</p>
--------------------	--

伊丹 Terra 昆陽プログラム 内科指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が市立伊丹病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医がwebにてJ-OSLERにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容についてその都度評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリ内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時まで合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。

2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです。
- 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3か月ごとに研修手帳Web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳Web版への記入を促します。また、各カテゴリ内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリ内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準。

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
- 研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っているとは第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っているとは認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) J-OSLER の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、および専門研修プログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、伊丹 Terra 昆陽プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

各研修施設の就労規則・給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録とし

て、J-OSLER を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し、形式的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域を相談先とします。

11) その他

特になし。

伊丹 Terra 昆陽プログラム 内科専攻医研修マニュアル

1. 研修後の医師像とその終了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った subspecialist：病院で内科系の Subspecialty, 例えば消化器内科や循環器内科に所属し、総合内科医（Generalist）の視点から、内科系 subspecialist として診療を実践します。

2. 専門研修の期間

内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（後期研修）3年間の研修で育成されます。

3. 研修施設群の各施設名

基幹病院：市立伊丹病院

連携施設：大阪大学医学部附属病院

独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院

兵庫県立西宮病院

市立川西病院

一般財団法人 住友病院

市立池田病院

西宮市立中央病院

地域医療機能推進機構大阪病院

大阪医科大学附属病院

市立豊中病院

箕面市立病院

大阪労災病院

地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター

国立病院機構大阪医療センター

地方独立行政法人 市立吹田市民病院

市立東大阪医療センター

八尾市立病院

4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理する専門研修プログラム管理委員会を市立伊丹病院に設置し，その委員長と各施設から1名以上の管理委員を選任します。

専門研修プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き，委員長が統括します。

2) 指導医一覧

別途用意します。

5. 以上での研修内容と期間

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース，①内科基本コース，②Subspecialty 重点コースを準備しています。

Subspecialty が未決定，または総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は各内科部門ではなく，臨床研修センターに所属し，3年間で各内科や内科臨床に関連ある診療科を原則2ヵ月毎にローテートします。将来のSubspecialty が決定している専攻医はSubspecialty 重点コースを選択し，各科を原則として2ヵ月毎，研修進捗状況によっては1ヵ月～3ヵ月毎にローテーションします。

基幹施設である市立伊丹病院での研修が中心になるが，連携施設での研修は必須であり，原則1年間はいずれかの連携施設で研修します。連携施設では基幹病院では経験しにくい領域や地域医療の実践について学ぶことができます。

6. 主要な疾患の年間診療件数

内科専門医研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については，市立伊丹病院（基幹病院）のDPC病名を基本とした市立伊丹病院内科診療科別診療実績（H26年度）を調査し，ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています。ただし，研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり，初期研修時での症例をもれなく登録すること，外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステム（外来症例割当システム）を構築することで必要な症例経験を積むことができます。

7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

1) 内科基本コース（別紙1）

高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や，将来のSubspecialty が未定な場合を選択します。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり，後期研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として2ヵ月を1単位として，1年目に6科をローテーションします。2年目は症例数が充足していない領域を重点的に，連携施設において研修すると共に地域医療を経験し，内科専門医研修で必要とされる最低56

疾患群以上 160 症例の履修と 29 症例の病歴要約の登録を目標とします。2 年目に研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。3 年目は基幹施設においてより高度な総合内科の専門性を目指し、専攻医が志望する診療科を中心に 1~3 ヶ月単位でローテーションします。ローテーションする診療科については専攻医プログラム統括責任者が面談の上で決定します。

2) Subspecialty 重点コース (別紙 2)

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。専攻医は希望する Subspecialty 領域の診療科に所属し、研修 1 年目は基幹施設において内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、アレルギー疾患リウマチ科、血液内科のうち 6 つの診療科を選択し 2 ヶ月間を基本としてローテーションします。研修 2 年目は、症例数が充足していない領域を重点的に、連携施設において研修すると共に地域医療を経験し、内科専門医研修で必要とされる最低 56 疾患群以上 160 症例の履修と 29 症例の病歴要約の登録を目標とします。2 年目に研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、専門研修プログラム統括責任者が決定します。研修 3 年目には、基幹施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続して Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から重点研修を行うことがあります。あくまでも内科専門医研修が主体であり、重点研修は最長 1 年間とします。

8. 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイスやフィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

9. プログラム修了の基準

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいて専門研修プログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

10. 専門医申請に向けての手順

J-OSLER を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から”専攻研修のための手引き”をダウンロードし、参照してください。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、所属した研修施設の就労規則及び給与規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。専門研修プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. プログラムの特色

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース、①内科基本コース、②Subspecialty 重点コース、を準備していることが最大の特徴です。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。また、外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために、専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めることができます。

13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことがあります（Subspecialty 重点コース参照）。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

15. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。